お元気ですか！
志村 たかよしです

第８４８号　2017年7月23日

日本共産党中央区議団
中央区　築地 １－１－１
電　話 ３５４６-５５６３
ＦＡＸ ３５４６-９５７０

築地等地域活性化対策特別委員会

黒門市場と天王寺公園を視察

訪日外国人向けサービスを重視し活性化をはたす
―日本人の集客が課題―

築地等地域活性化対策特別委員会は、７月５日、６日に、大阪市の黒門市場と天王寺公園を視察しました。

黒門市場商店街振興組合のお話では、大阪みなみの繁栄とともに栄えた黒門市場ですが、景気の悪化等に伴いお客が減り、５～６年前まで、商店街は停滞していたそうです。

潮目が変わったのは、訪日外国人いわゆるインバウンドが増えたことでした。外国人向けのサービスを重視した結果、現在、訪れる約９割が外国人になりました。

商店街振興組合と各店舗は、「先を読んで行動に移す」ことをモットーにインバウンド対策をとってきました。

黒門市場に来る９割は外国人。家族や友人連れが多いとか。

両替機は案内所のほか、いくつかのお店にも設置。

たとえば、振興組合で空き店舗を購入し、インフォメーションセンターをつくり外貨両替機（上写真）を設置するとともに、当初は、マナーが悪いと思われていた食べ歩きもＯＫにしました。

その「食べ歩き」の楽しさが、ラインやフェイスブックなどのＳＮＳで世界に発信されることにより、ますます海外からの観光客が増えているそうです。

さらに、店ごとに努力をしています。

・店頭メニューのポップ（右写真）を工夫する。

・外国人をパートで雇い集客の力

店頭メニューの表示は外国語で対応しています。

にする。
・食べ歩きができるように小分けにして販売（下写真）をする。
・大人数でも食べられるフードコート（下左写真）を設置する。
・店前にテーブルと椅子を置き、販売している刺身などの商品を食べられるようにする（右写真）。

などです。

一方、日本人だけに対応している店は15軒程あります。

振興組合は、地元の飲食店や日本人の集客を重要な課題としてとらえ、様々な工夫をしているとのことです。

マグロの頭を前に、鮮魚店の前で刺身に舌鼓。

お店で買った食べ物はフードコートで楽しみます。

食べ歩き用にカットされたフルーツ。

民間企業がプロデュースする市立公園

動物園や市立美術館、真田幸村で有名な茶臼山などがある大阪市立天王寺公園は、あべのハルカスの目の前にあります。

大阪市は、立地ポテンシャルが高い天王寺公園を文化観光拠点にするために、整備を民間企業にトータルプロデュースさせました。

今回、大阪市経済戦略局職員らの説明を受け、芝生にリニューアルしたエントランスエリア「てんしば」（左写真）、おしゃれなカフェ（左写真）、和洋食の飲食店、ペットサービス、フットサルコート、子どもの遊び場（有料）など公園内に整備された施設を視察しました。

まだはじめてから2年目ということですので、公立の公園を民間事業者がトータルプロデュースして運営・維持管理するというやり方が、今後どのようになっていくのか、注目していきたいと思います。

「てんしば」から見える「あべのハルカス」。

天王寺公園内には、シャレたお店があちこちに。

ご意見、ご要望など、お気軽にご連絡ください（3536－6309）

phot by shimura

ブログもごらんください　志村たかよしワールド　検索